

## はじめに

---

住み慣れた地域で、家族や友人とともに暮らしたい。これはすべての人びとの共通の願いです。

社会福祉は、ノーマライゼーションの理念のもとで、住民一人ひとりの福祉ニーズに対応し、みんなが安心して暮らせるまちづくりの実現をめざすものであり、住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことのできる社会的条件として、当事者を孤立化させることがないように地域福祉や在宅福祉に対する社会的にサポートする基盤が必要となります。これには、その担い手であり、また受け手でもある地域の住民一人ひとりが主体となりうるための方向づけと福祉のまちづくりへの形成が急がれます。

先の平成16年度調査研究「電子タグと携帯電話を活用した視覚障がい者のための公共トイレ音声案内システムに関する調査研究報告書」において、視覚障がい者の外出の大きな障害になっている外出時のトイレの問題を解決し、視覚障がい者の自立支援のためには、「公共トイレ音声案内システム」は視覚障がい者のサポートシステムとして有用であり、その実用化に向けての課題を提言したところです。

今回は、それぞれの地域において、自らの活動として分散的な普及に取り組むことができるよう、誰でもが利用して簡単にサービスを実現できるオープンな基盤システムの実用化と普及に向けて、視覚障がい者及び視覚障がい者福祉等関係団体並びに公共トイレ管理団体から参加・協力を得て、金沢市、名古屋市及び仙台市においてフィールド試験を実施しました。その結果、オープン基盤システムの有効性、実用性が実証され、また、よりの確かな音声案内を行うための要件を明らかにすることができました。

本システムは、電子タグ、携帯電話、インターネットといった既に有る技術により実現しており、実用化を考えた場合でも低廉で簡単であり、すぐにでもサービスを実現できるものです。このサービスはトイレ個室内の音声案内だけでなく、観光地情報や展示物の情報案内等へ応用することが可能であり、様々な生活の場面で活用することが考えられます。

今後は、公共トイレ音声案内システムの普及に向けては、本システムの基本条件やトイレ空間のユニバーサルデザイン等についての課題があるものの、このシステムが早期に実用化・事業化されることによって社会福祉をサポートする基盤となり、より良い福祉のまちづくりの形成につながることを期待するものです。

最後に、フィールド試験の実施にご協力をいただいた、特定非営利活動法人

ぴあサポート、特定非営利活動法人 ひとにやさしいまちづくりネットワーク・東海、宮城県立盲学校、株式会社金沢名鉄丸越百貨店（めいてつエムザ）、栄公園振興株式会社（オアシス21）、財団法人 仙台ひと・まち交流財団（せんだいメディアテーク）の皆様にご挨拶申し上げます。

平成18年3月

視覚障がい者のための公共トイレ音声案内システムの  
実用化と普及手法に関する調査研究会  
座長 細野昭雄